

## 6月定例記者会見市長原稿要旨

はじめに、新型コロナウイルス禍における災害に備えた避難所運営訓練についての情報提供です。

現在、政府や県から災害時の避難所運営に関する通知やガイドラインが示されており、本市でも危機管理課を中心に、このような状況下における避難所運営体制の検討を重ねており、防災・減災日本一を目指すまちとして、今後、飛沫防止の間仕切り、消毒液などの感染症対策用品の購入、停電や熱中症対策にも取り組み、災害時に円滑な避難所運営ができるよう、準備を進めているところです。

今回の訓練は、台風シーズンを迎える前に、水害発生時の避難所開設を想定し、感染症対策を行った避難所運営を、市・地域・民間企業が連携して実施するものです。

期日は、7月12日（日曜日）、会場は龍ヶ崎市立松葉小学校と隣接する松葉コミュニティセンターの2か所で、避難者の受付、避難所内の区画割りや間仕切り設置などの訓練を行う予定になっています。

訓練の目的は、大きく分けて2つあり、1つは市職員の感染症下における避難所業務を行う上でのノウハウ習得、2つ目は市民の皆さまのご協力による避難所運営です。特に後者は、これまでの訓練や災害時の経験も少なく、試行的な取り組みではありますが、これまで市職員が主に担ってきた避難所運営を、市民の皆さまの力もお借りすることで「オール龍ヶ崎」での災害対応が可能になれば、これ以上に心強いものはありません。

地域と連携し、感染症対策を行うことを想定した初めての訓練であり、様々な課題が出ると思いますが、その課題を今後の避難所運営に活かしてまいりたいと考え

ておりますので、記者の皆さまの取材もよろしくお願いいたします。

次に、育児をする男性の姿を季語のない 5・7・5 で表現した「イクメン川柳」募集に関する情報提供です。

男女共同参画事業として実施している「イクメン川柳」は、今年で9回目を迎え、毎年全国から多くの応募があり、好評を得ている事業の一つです。今年は 6 月 15 日から募集をスタートしており、7 月 31 日金曜日が応募締切となっています。

作品は「イクメン部門」と、育児をする祖父をテーマにした「イクジイ部門」の 2 部門で募集しています。昨年度はイクメン部門よりも、イクジイ部門が多く応募をいただいております。孫育てにかかわることで生きがいを感じられている方も多いのではと、作品を拝見し、感じているところです。

応募いただく作品は、ご自身の体験だけでなく、女性や家族の視点から見た作品も可能となっておりますので、子育て・孫育てを楽しむ姿が目浮かぶような、ユーモアあふれる一句をお待ちしています。

次に、非核平和推進事業『次世代と描く「原爆の絵」展－高校生と被爆体験証言者による共同制作－』の開催に関する情報提供です。

この企画展示は、龍ヶ崎市歴史民俗資料館を会場に、7月4日土曜日から7月19日、日曜日までの期間で開催いたします。

今回、展示する作品は、広島平和記念資料館と広島市立<sup>もとまち</sup>基町高等学校の生徒たちが連携して、制作したもので、その複製画のデータを広島平和記念資料館から借

り受けたものです。

なお、本市では、戦争による過去の悲惨な歴史を繰り返すことのないよう、平和の大切さや尊さを後世へ語り続けていくため、様々な平和推進事業を展開しています。

平成 26 年度からは、広島や長崎で開催される平和記念式典、戦時中に住民を巻き込んだ、激しい地上戦の戦場となった沖縄などへ市内の中学生を派遣する事業を実施しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中学生の派遣は中止の判断をし、企画展のみを開催することといたしました。

被爆体験者と高校生たちの強い思いがこもった作品を通し、1人でも多くの皆さまに、原爆がもたらした影響と平和の尊さについて考えていただければ幸いです。

最後に、7月からスタートいたします、市内での買物推進キャンペーン「龍ヶ崎“ありがとう”アクション」に関する情報提供です。

キャンペーンでは、市内商店へ足を運んでいただけるよう、ポスターやのぼりでの啓発、SNS での「ハッシュタグ龍ヶ崎ありがとうアクション」を通じて、市民自身が足を運んだお店を紹介できる、仕掛けづくりを進めるほか、7月補正での事業者への更なる支援にも取り組んでまいります。

今回のキャンペーンを通し、多くの方が地元消費の大切さや市内での経済循環の意義、さらには「ありがとう」という言葉を通じた、市民同士の繋がりなど、龍ヶ崎市内のお店や人を意識していただくことで、最終的には、地域活性化に繋がればと考えています。

「With コロナ」の時代を迎え、長距離移動を控える一方で、生活のすぐそばにある、市内の商店や文化財、公園や景色といった、身近な場所にある本市の魅力を発見する機会が増えているかと思えます。

この機会に、改めて龍ヶ崎の魅力に、目を向け、足を運んでいただくことが、本市を元気にするために、一人ひとりが出来るアクションです。市民の皆さまをはじめとする本市にかかわる皆さまのお力で、龍ヶ崎のまちも、人も元気になるように、力を合わせてまいりましょう。